

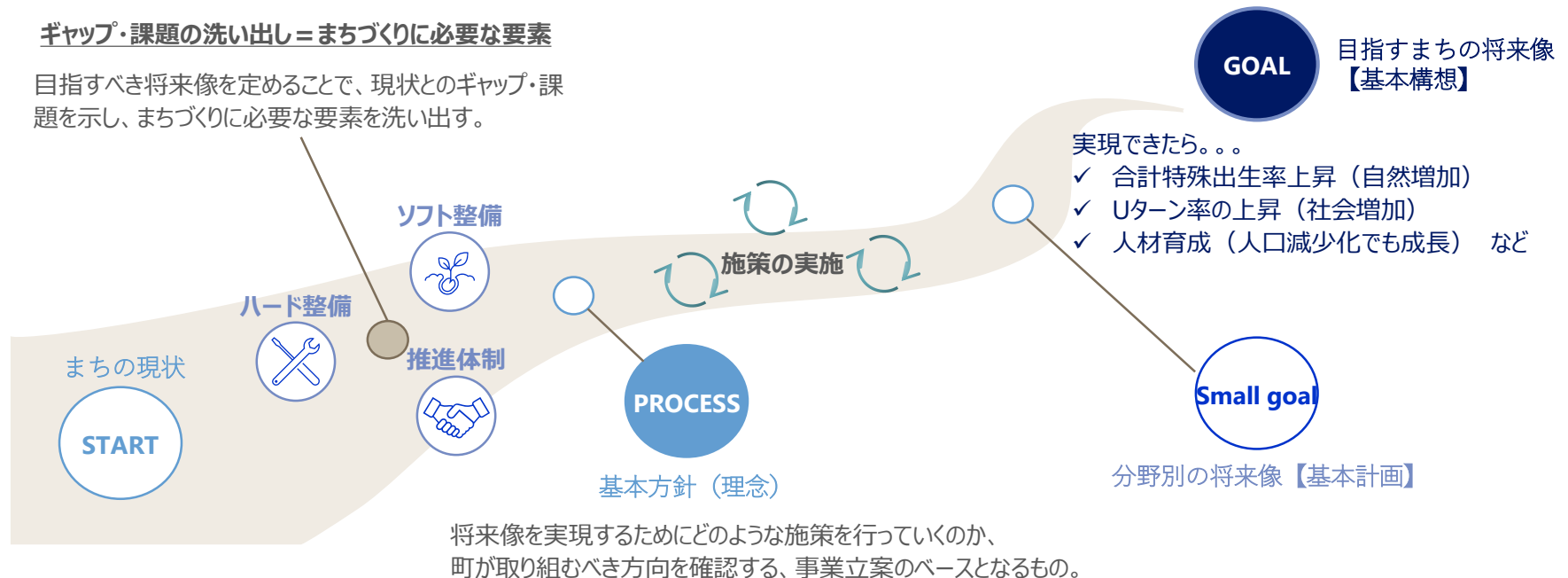
日の出町第六次長期総合計画の全体構成及び基本構想の検討

目 次

1 総合計画とは・・・・・・・・・・	1	4現状・課題整理	
2 総合計画策定のための基本的な考え方・・	3	4.1現状確認・・・・・・・・・・	11
3 次期計画の構成検討		4.2主要課題・・・・・・・・・・	13
3.1 日の出町の現行計画の構成・・・・・・・・	5	5 基本構想の検討	
3.2 計画構成の見直し案・・・・・・・・・・	6	5.1基本的な考え方・・・・・・・・	15
3.3 基本構想の構成見直し案・・・・・・・・	7	5.2基本構想案・・・・・・・・・・	16
3.4 基本計画の構成見直し案・・・・・・・・	8		
3.5 基本計画の横断的な視点・・・・・・・・	9		

1. 総合計画とは

- 総合計画とは、町の行財政運営の長期的な指針となる、最上位の計画。
- 地域特性や課題、時代の流れを見極めながら、どのようなまちにしていけるのか、そのために、だれが、どのような手法で取り組むのかを、総合的・体系的に取りまとめた計画書。【バックカスティング】



総合計画策定のための基本的な考え方

2. 総合計画策定のための基本的な考え方

- 条例により、総合計画は最低でも基本構想と基本計画の2層と定められている。

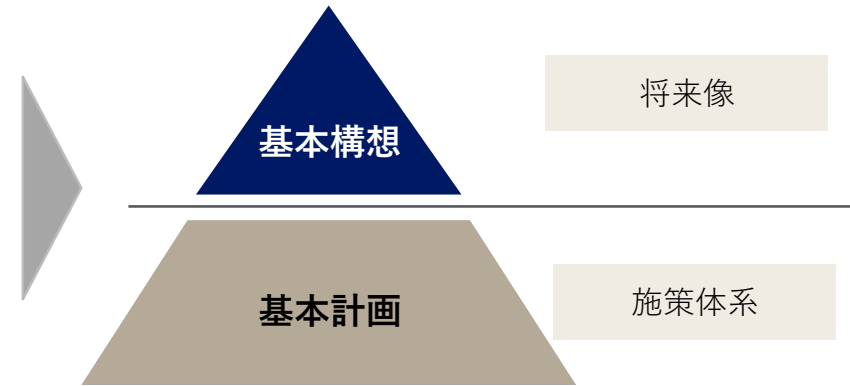
日の出町議会基本条例（抜粋）

(法第96条第2項の議決事項)

第11条 省略

(1) 総合計画(町における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための計画をいう。以下同じ。)のうち、基本構想(町が目指すべき将来像及びこれを実現するための構想をいう。以下同じ。)及び基本計画(基本構想を実現するための基本的な計画で、町政全般に係る政策及び施策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定めるものをいう。)の策定、変更又は廃止

日の出町の総合計画に必要な要素



- 次期計画は、町民にとってわかりやすい構成・内容であることをより重視する。

策定に当たっての基本的な考え方（策定方針より抜粋）

1. わかりやすい計画づくり

町の最上位計画として、多くの人に手に取って読んでもらえるよう、構成・内容はわかりやすさを重視する。

2. 町民主体の計画づくり

町民ニーズを的確に捉え、計画に反映するため、アンケートやワークショップ等により町民参加の機会を確保する。また、住民の信託を受けた町長の政策を早期に反映させるため、計画期間を町長の任期である4年の倍数の8年（現行6年）に見直す。見直し事項①

3. 行政計画の効率化

町の計画には、最上位計画である総合計画の他、分野別計画・個別計画と多くの計画が存在している。効果的・効率的な自治体経営のため、次期総合計画では前期基本計画の4年間で各計画の方針、取り組み内容を整理・検証する。行政計画全体の連動性を高め、重複をなくすことで、様々な施策や事業を総合的かつ計画的に推進する。見直し事項②・③

4. 適正な行政運営による行政計画の実現性確保

行政改革大綱の計画期間を長期総合計画と一致させることで、計画的かつ健全な財政運営を図り、行政計画の実現性を確保する。見直し事項④

主な見直し事項

1. 構成・内容は、わかりやすさをより重視
2. 計画期間は8年（前期基本計画は4年）
3. 行政計画の連動性を高め、重複をなくす（戦略は統合、行革大綱は期間を一致）

次期計画の構成検討

3. 次期計画の構成検討

3.1 日の出町の現行計画の構成

- 現在の日の出町の総合計画は、「基本構想」と「基本計画」の2層構成。
- 基本構想では、将来像、基本目標、施策の大綱（施策の柱＋課題整理）等を示し、基本計画では、施策体系、各施策とその主要事業、KPI等を示している。

現行計画

基本構想（日の出町）

【将来像】	【基本目標（分野）】	【施策の柱】	【その他】
みんなでつくる 日の出町！「安 心・躍進・自立の まち」	生涯にわたって健康で安心し て暮らせるまち ひので	施策の柱① ...	社会動向
	交流を基盤に若者もいきいき 定住するまち ひので	...	人口推計
	人と文化が輝くわたしのふる さと ひので	...	アンケート結果
		...	土地利用構想

基本計画（日の出町）

【施策体系】	【施策】
生涯にわたって健康で安心し て暮らせるまち ひので	施策の柱①
交流を基盤に若者もいきいき 定住するまち ひので	
人と文化が輝くわたしのふる さと ひので	

参考：他団体の事例

将来像	日の出町と同様に、将来像（目指すべきまちの姿）を一文で描いている自治体が多い。複数の将来像を描いている自治体もある。
基本目標	日の出町と同様に、多くの自治体で記載があり、分野と併せて分かりやすく記載している自治体が多い。近年では、基本目標（分野別将来像）を基本構想において位置づけない自治体もある。
基本理念 ※日の出町はなし	日の出町は基本理念を設定していない。一般的には、自治基本条例等に基づき、複数の理念を設定している自治体が多い（協働、市民参加、環境、持続可能性、市民生活、財政など）。基本理念としては、明確に定めず、将来像のみ（「将来像」と「基本理念」を分けていない）の自治体もある。

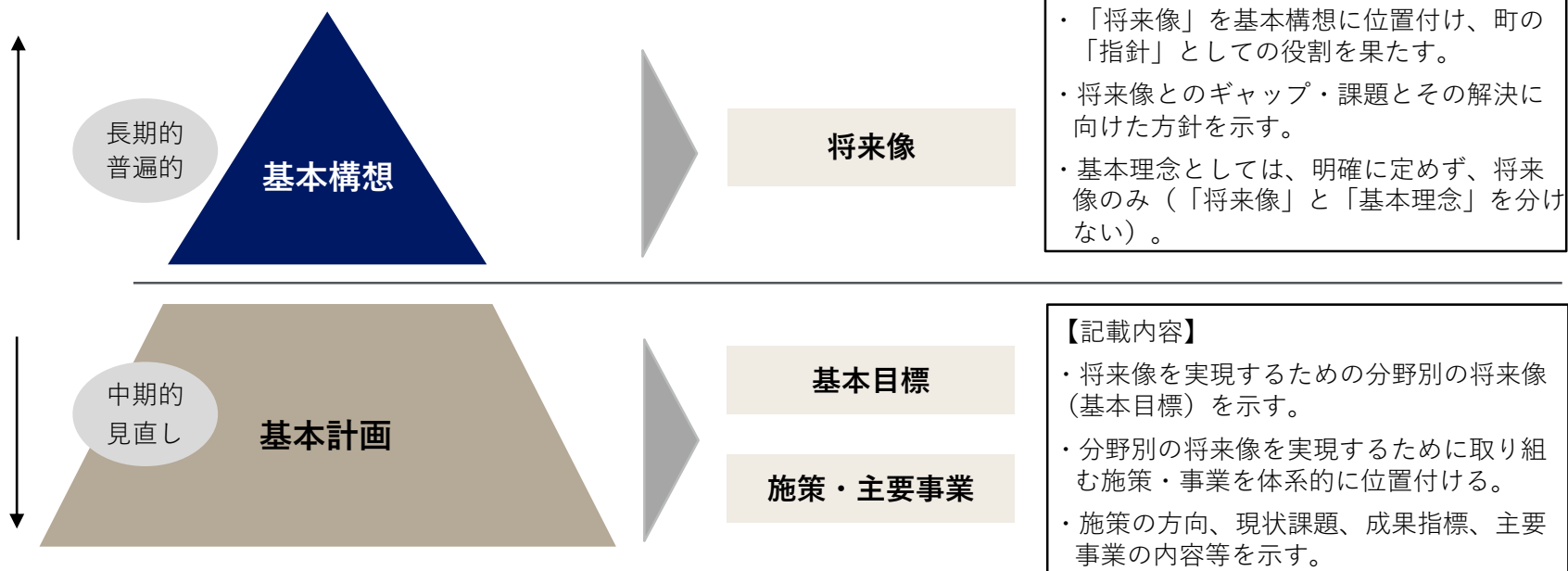
3. 次期計画の構成検討

3.2 計画構成の見直し案

- 基本構想は、**長期的・普遍的な「将来像（8年後の目標）のみ」**とし、「基本目標（分野別の将来像）」は、基本計画に位置付ける。

※これにより、分野別の将来像と施策の関連をより明確に示すとともに、必要に応じて中期的な方針を見直すことで、時代に即した事業が展開できる。

次期総合計画の構成案



【見直しの効果】

- ✓ 記載の重複を減らすことで、町民から見てわかりやすく、計画策定・改定の負担も減る。
- ✓ 必要に応じて、社会の変化や町民ニーズを考慮した中期的な方針を見直すことができ、柔軟な事業展開が可能となる。
- ✓ 分野別の将来像と施策との関連性をより明確に示すことで計画の具体性が高まり、町民や職員の認知度、活用度が向上する。

3. 次期計画の構成検討

構成案（基本構想）

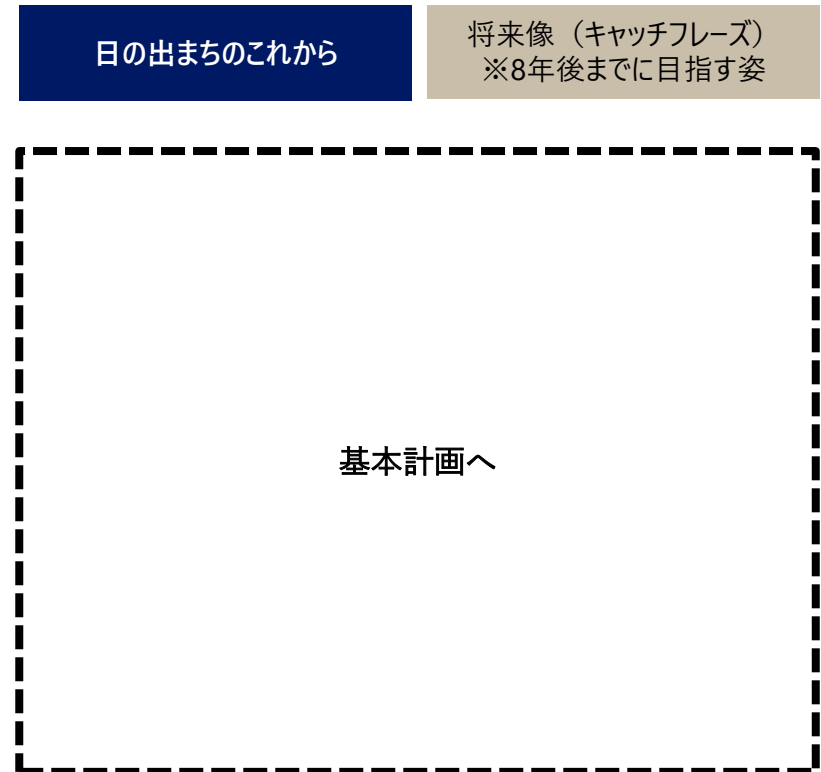
3.3 基本構想の構成見直し案

- 基本構想では、長期的・普遍的な将来像のみを示す。
- これにより、計画の性格と役割が明確になるとともに、現行計画で記載する社会の動向や人口ビジョン等は、必要に応じて、柔軟に更新できるようになる。

現行（基本構想）

日の出町のこれから	将来像（キャッチフレーズ）
	基本目標
	施策の柱
施策の大綱	課題の整理と目標
世の中の動き	時代の潮流・社会の動向
日の出町の動き	人口ビジョン
	町民アンケートの結果
土地利用構想	土地利用の方針

次期案（基本構想）

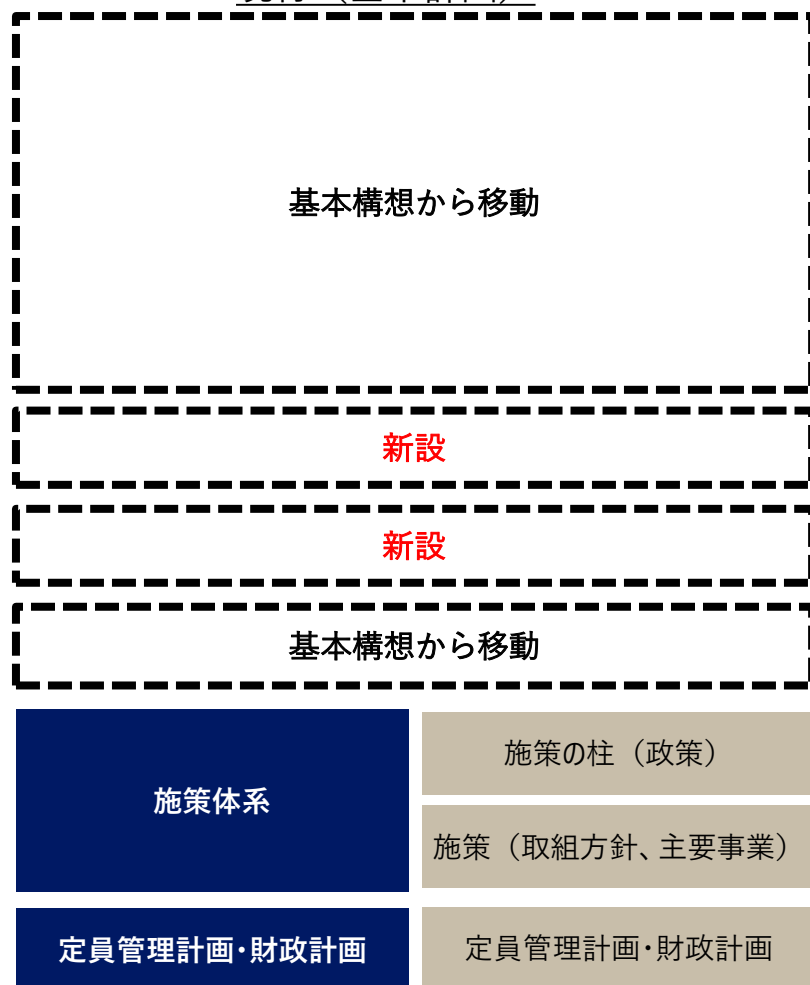


3. 次期計画の構成検討

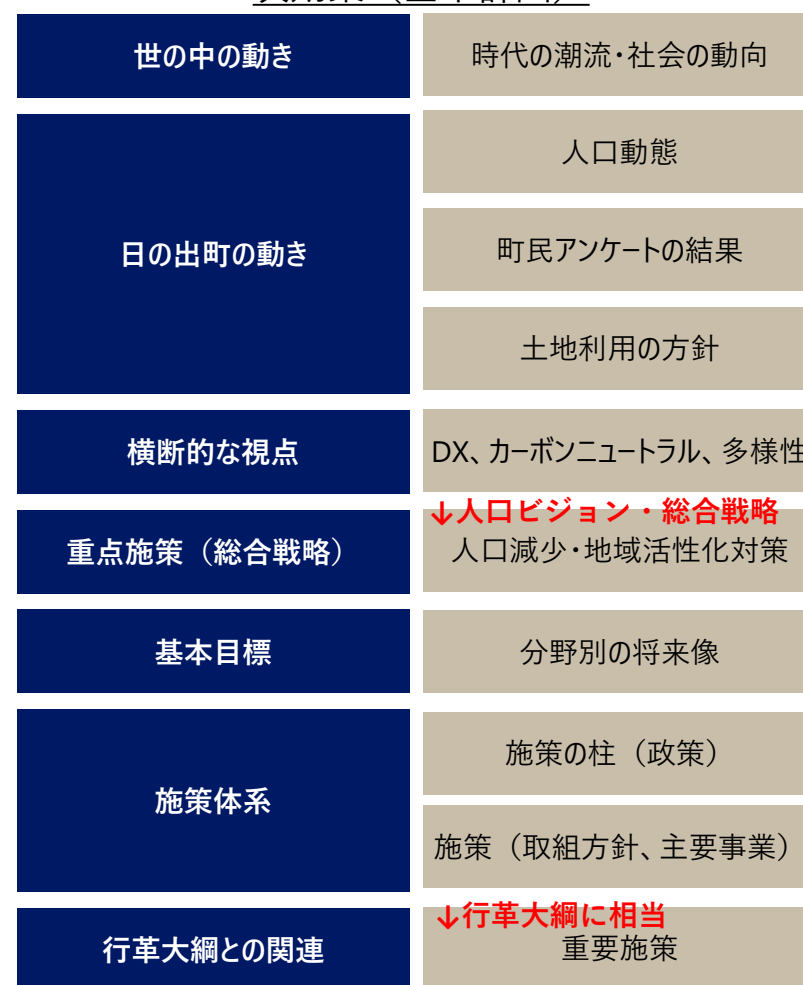
3.4 基本計画の構成見直し案

- デジタル化など横断的な推進が求められる要素を、常に意識すべき視点として示す。
 - 人口ビジョン・総合戦略は、基本計画の重点施策として位置付ける。
 - 定員管理・財政計画は行革大綱に包含し、将来像を実現する重要施策を示す。
- ※ 具体の取組・定員管理・財政計画は内容を精査した上で集中改革プランとしてまとめる。

現行（基本計画）



次期案（基本計画）



3. 次期計画の構成検討

3.5 基本計画の横断的な視点

- 横断的な推進が求められる視点は、経済社会システムの変革やトレードオフの解消など、すべての関係者が持つべき指針として5～6項目設定する。

横断的な視点の例

	テーマ	説明
1	カーボンニュートラルの推進	2050年温室効果ガス排出実質ゼロの達成に向け、グリーンエネルギーを中心とした経済社会システムへの変革を促し、行動していくことが、あらゆる分野で求められています。 - 目標の達成には、トレードオフの解消が重要となります。
2	デジタル化の推進	- デジタル技術の活用により、行政サービスや市民生活、経済活動などあらゆる場面における社会変革を促していくことが求められています。 - また、デジタル化の恩恵は、特定の人のみが享受できるものではなく、常に最適な手法を検討し、実施することで、誰もがその恩恵を享受し、一人ひとりの生活の利便性の向上につながることを期待されています。
3	多様性を意識した施策展開 (多文化共生の推進)	- 従来から、障がいの有無や性別、性の多様性などを意識した施策展開が、あらゆる分野で求められています。 - 地方においても年齢や性別、国籍、人種など様々な背景をもった方々が暮らしています。とりわけ、常住する外国人は、年々増加傾向にあります。 異文化の理解や協働を促進し、あらゆる分野で安心して暮らせる環境をつくり、多様性を地域の持続可能な成長の原動力としていくことが期待されています。
4	ジェンダー平等の推進 (女性活躍の推進)	- 全ての町民が性別に関わらず、平等に機会が与えられ、自分らしく生きることができる社会の実現が求められています。 - 特に、少子高齢化、人口減少が進行し、「働き手」となる労働人口の減少が見込まれる中、多様な人材を確保し、まちの活力と成長を促進させるためにも、女性が社会の様々な場面でより活躍できる環境づくりが求められています。
5	安心・安全のまちづくり (災害対応)	頻発化・激甚化する自然災害に備え、人命の生活の保護が図られるとともに、社会システムの被害を最小化し、災害から迅速に復旧するため、ソフト・ハード両面による防災・減災対策の強化や公共施設等の長寿命化・老朽化対策などが求められています。
6	人口減少対策 (定住促進と出生率向上)	核家族や共働きの世帯の増加などの社会情勢を踏まえ、結婚・出産・子育て、そして、その先のそれぞれのライフステージに寄り添った施策を多面的かつ総合的に展開することで、子育て世代の定住促進と出生率向上を目指すことが求められています。

現状・課題整理

4. 現状・課題整理

4.1 現状確認①

<現状確認>

A. 時代の潮流・社会の動向（基礎調査）

①人口減少・少子高齢化の進行

予想を上回る速度で進行する少子化に対し、結婚・出産・子育てへの支援を行うとともに、高齢者がいきいきと暮らせる取組が必要

②環境問題・脱炭素への取組

2050年カーボンニュートラルの実現、2030年度の温室効果ガス46%削減（2013年度比）を目指す

③自然災害リスクの高まり

激甚化する災害への対応力を高め、防災分野におけるDXを推進

④ライフスタイルや価値観の多様化

多様なライフスタイル・価値観を前提としたまちづくりを推進

⑤持続可能なまちづくり

脱炭素、エネルギー地産地消、気候変動への対応、企業との連携等により、持続可能なまちづくりを推進

⑥技術革新・デジタル化の加速

各分野において規制・制度の見直しやシステムの整備を推進するデジタル行財政改革を推進

⑦新型コロナウイルス感染症を契機とした社会変化

生活様式や働き方の変化を捉え、新たな取組を推進

B. まちの特性（各調査、統計データ等）

	日の出町の強み	日の出町の弱み
人口	・ 1人あたりの保育園・幼稚園の数が多く、待機児童が発生しない ・ 昼夜間人口比率はプラス	・ 出生数低下（出生率（R5：0.89）の著しい低下）による人口減少、少子高齢化 ・ 町内に大学等が少なく、進学・就職を機会に若年層の転出が多い
産業	・ 大型商業施設（イオンモール）が立地 ・ つるつる温泉が観光面や町民の暮らしに有意義	・ つるつる温泉や野鳥の森等、観光資源はあるが、飲食店や宿泊施設が不足しているため、誘客できていない
交通・市街地	・ 東西に長い地形だが、山間地域を除くとコンパクトなまちになっており、施設の設置等がしやすい	・ 町内に鉄道駅がなく、アクセス性が低い ・ 市街化調整区域や農地が多く、自由に開発できる土地が少ない
居住・環境	・ 戸建て世帯の多さや車の保有率の高さから、定住する人が多い ・ 住宅面積は都内トップクラス	・ 自治会ごとのコミュニティ施設はあるが、世代間の交流が行われていない ・ 児童館が町内に1つしかない
自然・文化	・ 野鳥の森や平井川等、自然豊かな環境 ・ 亜細亜大学が立地	・ 近隣自治体には存在する郷土館がない ・ 雑草や木の手入れが十分でない
行財政	・ 実質公債比率が低下傾向にある	・ 経常収支比率が高く、令和8年以降、歳入が大幅減少する見込

4.現状・課題整理

4.1現状確認②

C. 町民意向（アンケート調査・ワークショップ）

①総じて8割以上が住み続けたいと評価

50.5%が「住み続けたい」、32.8%が「どちらかといえば住み続けたい」と回答しており、定住意欲は高い

②総じて6割以上が誇りや愛着を感じている

38.3%が「誇りや愛着をやや感じている」、27.9%が「誇りや愛着を感じる」と回答

③重点を置くべき取り組み

「保健・福祉の分野」（20.6%）、「人口減少対策」（15.9%）、「子育ての分野」（12.2%）の順

④町の良いところ

「自然が豊か」、「温泉などの観光資源がある」、「イオンモールがあり生活が便利」、「福祉施設が充実している」、「文化財がある」

⑤改善点

「交通アクセス」、「効果的な情報発信」、「子育て支援の充実」

⑥理想の未来像

「自然を感じる住みよいまち」「まちの資源を活用できる人材づくり」「身近な体験を高付加価値化」「安心して豊かに暮らしてつながるまち」

D. 将来人口予測（2035年人口）※住基ベースで試算

少子高齢化は進み、2035年の人口は13,591人と推計される。
（合計特殊出生率→R3-5の平均（1.064）が続く想定で推計）

人口推計結果	2025年	2030年	2035年	2040年
人口（全体）	16,048	14,861	13,591	12,406
0～14歳人口	1,865	1,298	976	867
15～64歳人口	8,333	8,102	7,400	6,275
65歳以上人口	5,850	5,461	5,175	5,263
0～14歳人口比率	11.6%	8.7%	7.2%	7.0%
15～64歳人口比率	51.9%	54.5%	54.7%	50.6%
65歳以上人口比率	36.5%	36.8%	38.1%	42.4%

4. 基本構想の検討

4.2 主要課題

<町の主要課題>

1. 子育てしやすい環境づくり

- 子育て世帯の働き方に応じたニーズを的確にとらえるなど、多様な子育て支援に取り組む必要がある。
- 子育ての不安や負担を軽減するために、地域ぐるみで子育てを支え合う環境づくりも必要である。

2. 住宅都市としてのまちの魅力発信と定住人口確保

- 本町の大きな「強み」である居住環境（戸建て住宅の優位性）に着目し、新しい住民を呼び込む戦略が不可欠。
- 住宅都市（暮らしやすいまち）としてのイメージの確立を目指し、町の魅力を積極的に発信する必要がある。

3. 地域に密着した産業の強化と多様な働き方の実現

- 既存産業の発展強化、人材確保、事業承継などの諸課題に対処することが必要である。
- 文化・スポーツを含め地域資源を最大限に活用した産業の高付加価値化を促進し新たな雇用を獲得する必要もある。
- 若い世代の就労・雇用確保や仕事と子育ての両立、高齢者などが多様な働き方のできる環境整備も求められている。

4. 地域連携の強化と人材育成・教育の充実

- 人口減少時代を見据えた地域づくり、「共助」の仕組みづくりを積極的に展開していく必要がある。
- 地域活動を支える担い手と交流の場の確保、地域資源を活用できる教育、人材育成が必要となっている。

5. 安心・安全のまちづくり

- 災害への対応力を高めるとともに、老朽化するインフラの整備や長寿命化など、安全な生活環境の確保が必要である
- 医療・福祉サービスの維持が必要である

6. 自然環境の保全、調和

- 自然環境の保全とともに、環境との調和・共生に向けた取組を着実に進めていく必要がある。
- 資源循環、省エネルギー化など環境負荷を低減するための取組を進める必要がある。

基本構想の検討

5. 基本構想の検討

5.1 基本的な考え方

<基本的な考え方>

- 将来像のキャッチフレーズは、町民と行政（町）の共通目標となるよう、どの世代にもわかりやすく、伝わりやすい表現とする。（「この状態を目指してみたい」と思える将来像）
- 将来像の内容（本文）は、現在の魅力や強みを生かしつつ、未来を予測し、将来に向けてどのようなまちを目指すのかを示す。

5. 基本構想の検討

5.2基本構想案

みんなでつくろう日の出町 「暮らしたくなるまち」の実現

- ・「みんなでつくろう 日の出町」は、協働のまちづくりの理念（変わらないもの）として残す。（昭和55年に制定した町民憲章5か条の1「お互に手をとり助けあい、心の通う明るいまちにしよう」とも一致している。）
- ・「暮らしたくなるまち」がどのようなイメージが伝わるような「ロゴ」を作成する。

<本文案> 550～600文字程度でまとめる

町の歴史、時代の潮流・社会ニーズ、町の強み

日の出町はかつて、大久野村と平井村が合併してできた人口約8千人の「村」でした。東京都の発展とともに人口は増え、昭和49年に町制を施行し、令和6年に50周年を迎えました。この50年で人口は1.5倍となり、町は大きく成長しました。

しかし近年は、本格的な人口減少・少子高齢化が進行し、まちの活力の維持や安定的な行政サービスの提供に大きく影響を及ぼす重要な課題となっています。まちは大きな転換期にあり、人口減少社会においても活力を失わないまちづくりや、ともに支えあう地域づくりが求められています。

日の出町には、首都圏でありながら暮らしに豊かさと安らぎを与えてくれる「美しい自然」があり、このまちに誇りと愛着を持って暮らす温かい「人」がいます。

また、圏央道の開通や大型商業施設の開業などにより、生活の利便性は飛躍的に向上し、暮らしやすい住宅都市としての魅力を確認しつつあります。

町の将来展望（アウトカム）

これら地域資源の魅力を最大限に生かすことで、自然と都市が調和した便利で快適なまちを実現します。また、変化の激しい時代にあっても、まちで暮らす人たちが変わらず支えあい助け合いながら暮らせる地域をつくるとともに、子育てや教育への支援を通して、若者や女性がより一層好きや得意を発揮できる環境を整備することで、誰もが暮らしたくなるまちを実現します。